

生理機能検査説明と注意事項

枠グループ	分類1	検査の説明	注意事項
心電図	安静時心電図 (12誘導)	心電図の電気信号を波形として描出したものです。心筋梗塞や狭心症、不整脈などの心疾患の有無を調べます。	手首・足首の4カ所、胸部に6カ所の電極をつけて検査します。力を抜きリラックスしてください。
	自律神経検査 心電図呼吸変動	浅呼吸と深呼吸の心拍の変動を比較して自律神経機能に傷害がないかを調べます。	手首・足首の4カ所、胸部に6カ所の電極をつけて検査します。力を抜きリラックスしてください。
負荷心電図	負荷心電図 (マスター2段階シングル)	負荷台をリズムに合わせて1分30秒間昇り降りし、運動で誘発される狭心症や不整脈がないか調べます。	負荷台を昇り降りしますので転倒や足をぶつけない注意してください。負荷途中で胸痛や膝痛、めまいなど体に異常を感じたらすぐに申し出てください。
	負荷心電図 (ジャンプ)	決められた回数のジャンプをして誘発される狭心症や不整脈がないか調べます。	負荷途中で胸痛や膝痛、めまいなど体に異常を感じたらすぐに申し出てください。
	OD心電図	10分安静後に起立してもらい心電図と血圧を同時測定します。起立性低調節障害の検査。	検査中に動悸やめまいなど体に異常を感じたらすぐに申し出てください。
	その他負荷心電図	顔面浸水試験など冷水にできるだけ顔面を浸し心電図を記録します。QTの変化を調べる検査。	検査中に体に異常を感じたらすぐに申し出てください。
トレッドミル 運動負荷	Bruce Mod. Bruce Mild Bruce	心電図と血圧をモニタリングしペルトコンベアーの上を歩き、運動中の心電図変化の有無を調べます。循環器医師が行います。	目標心拍数まで運動をしますが、途中で胸痛や膝痛、めまいなど体に異常を感じたらすぐに申し出てください。
ホルター型 心電図	ホルター型心電図検査	小型の機器を24時間装着し、日常生活における不整脈や狭心症を記録します。	シャワーや入浴はできません。電気毛布は就寝前にコンセントを抜いてください。検査日の翌日同時刻にもお越しいただいて機器の取り外しを行います。
ABPM	ABPM (24時間血圧測定) + SPO2	小型の血圧計を24時間装着し、30分ごとに自動測定します。日常生活における血圧変動を調べます。	シャワーや入浴はできません。電気毛布は就寝前にコンセントを抜いてください。
動脈硬化検査	血圧脈波検査 (ABI、CAVI)	足首と上腕の血圧を測定し、その比求めることで動脈硬化の程度を調べます。また心音図をモニタリングすることで脈拍の伝わる速さ(動脈の硬さ)を調べます。	手足4カ所にカフを巻き、数回きつく締め少し痛みを感じますが、すぐに緩みます。透析シャントの有無を依頼時に記載してください。
脳波	睡眠賦活あり 睡眠なし 薬剤賦活	脳から生じる微弱な電気活動を頭皮上の電極から増幅し波形として記録します。覚醒や睡眠の状態、脳の機能障害(てんかん、意識障害)の有無、その広がりを無侵襲に検査します。	髪に整髪料はつけないでください。ピアス、イヤリングは外してください。ご自身のブラシをできるだけご持参ください。検査に薬剤を使用する場合は事前の指示に従ってください。エクステをされている方は検査できないことがあります。
ABR	聴性脳幹反応 (ABR)	音の刺激により発生する、聴覚伝導路及び脳幹部からの電位を記録します。聴力や聴神経機能の検査です。	髪に整髪料はつけないでください。ピアス、イヤリングは外してください。
新生児 聴性脳幹反応	AABR 新生児聴性脳幹反応	音の刺激により発生する、聴覚伝導路及び脳幹部からの電位を記録します。聴力や聴神経機能の検査です。	検査中は眠っていただくため、睡眠時間の調整をしてください。 空腹時や啼泣時は避けてください。
筋電図	筋電図	筋線維の電気活動を記録して、末梢神経や筋肉の疾患の有無を調べる検査です。針電極を使用します。	食事制限はありません。電気刺激による若干の痛みや不快感を伴うことがあります。

	神経伝導速度	末梢神経を皮膚上で刺激し、誘発された電位を記録します。末梢神経疾患や脊椎疾患の診断、病態の把握に活用されます。	食事制限はありません。電気刺激による若干の痛みや不快感を伴うことがあります。
	顔面神経刺激検査	顔の皮膚に電極を貼り、顔面神経を電気刺激した時の顔面の筋肉の電気活動を記録します。予後診断や回復過程の判定に有用です。	食事制限はありません。電気刺激による若干の痛みや不快感を伴うことがあります。
呼吸機能検査	肺機能検査 (スパイロメトリ)	肺の容積や気道の閉塞状況、末梢気道病変について調べます。術後肺合併症の予防や肺疾患の経過観察のための検査です。	検査結果は努力により大きく左右されるため、できるだけ頑張っていたできるように担当技師が声かけをします。
	精密肺機能検査 (SVC,FVC,FRC,DLco)	最大限に吐ききった状態で肺の中に残っている空気の量や酸素が肺から効率よく血液に取り込まれているかを調べます。	ガスを使用した検査になりますが、使用ガスの種類や吸入量は安全基準範囲内で検査しています。
	気道可逆性試験 (薬剤投与前、投与後15分)	薬剤を吸引して肺機能の改善が見られるかを検査します。	検査結果は努力により大きく左右されるため、できるだけ頑張っていたできるように担当技師が声かけをします。
	呼気中一酸化窒素測定 (NO測定)	呼気中の一酸化窒素を測定します。喘息などの好酸球性気道炎症の程度を調べます。	担当技師が声かけをします。
睡眠時無呼吸	簡易型検査	口鼻の気流、血中の酸素飽和度を記録して、睡眠中の呼吸状態を調べます。	自宅でご自身で機器の取り付けを行っていただきます。担当が取り付け説明をします。翌日に返却に来ていただきます。
	SPO2測定 (パルスオキシメーター)	血中の酸素飽和度を記録して、睡眠中の呼吸状態を調べます。	自宅でご自身で機器の取り付けを行っていただきます。担当が取り付け説明をします。
	終夜睡眠ポリソムノグラフィ (PSG)	口鼻の気流、血中の酸素飽和度、脳波などを記録して、睡眠中の呼吸状態を調べます。	1泊2日の検査入院で行います。夕食後から翌朝(19時~6時)まで、機器を装着します。
	CPAP解析	睡眠時無呼吸症候群の治療目的に使用している機器(CPAP)のデータを解析します。	CPAPのメモリカードを持参していただき自動解析を行います。
耳鼻科検査	標準純音聴力検査	気道閾値と骨導閾値を測定することにより、難聴の程度、種類の判定に有用です。	検査前15分はイヤホン等で過大な音を聞かないでください。メガネ、イヤリング、ピアスは外していただきます。
	気導聴力検査	気道閾値を測定します。	
	耳鳴検査	耳鳴りと近い音の種類、大きさを調べます。	
	自記オーディオメトリー(連続)	音が聞こえている間はボタンを押しつづけ、聞こえなくなったら離すを繰り返して聴力レベルを調べます。	
	閾値上聴力検査(SISI検査)	補充現象のある場合に、閾値上の音圧のわずかな差が正常よりも区別されやすいことを利用した内耳性難聴の検査です。	
	標準語音聴力検査	ことばの聞き取り聞き分けを調べます。社会生活における適応度や補聴器装用の情報となります。	
	ティンパノメトリー 耳小骨筋反射検査	外耳道を密閉し、一定の検査音がどの程度鼓膜から跳ね返されるかを容量の変化によりとらえる検査です。鼓膜、耳小骨の可動性や中耳腔の状態、顔面麻痺の状態や難聴の程度を推測することができます。	
	音場閾値検査	スピーカーからの音で聴力検査を行います。補聴器装用なしとありで検査を行い効果を判定します。	
	音場語音聴力検査	言葉の聞き取り聞き分けを調べます。	
	重心動揺検査 ラバー負荷	起立姿勢に現れる体重心の揺らぎを測定し、パターンから平衡機能を評価します。	検査に伴い一時的なめまい感、気分不良が生じることがあります。

電気眼振図 (ENG)	電気眼振図 (ENG)セット	外耳道に冷水を注入することにより引き起こされる眼振を眼振計に記録します。前庭機能の検査です。	食事制限あり 午後の検査のため昼食はとらないでください。一時的なめまい感や気分不良が生じることがあります。
眼底検査	眼底検査（無散瞳）	散瞳剤を使用しない自然の状態、広範囲の眼底像を撮影します。網膜の血管等の状態を把握します。	カラーコンタクトレンズは検査できません。ハードコンタクトレンズは外していただくことがありますのでケースをお持ちください。
体液量等測定	体液量等測定 (InBody)	体を構成する基本成分である体水分・タンパク質・ミネラル・体脂肪を定量的に分析し、人体成分の過不足を評価する。	5分程度起立している検査です。 ペースメーカーを装着している方は検査不可 です。食後3～4時間空けてください。
皮膚灌流圧	皮膚灌流圧検査（SPP）	カフを用いて膨らませ一旦血流を遮断してから徐々にカフ圧を減少させ、再び血流が出現するまでの圧を測定します。レーザーを用いて毛細血管レベルの血流を測定します。重症下肢虚血（CLI）の重症度評価と治療方法の選択、難治性潰瘍の治癒予測をするための検査です。	検査は仰臥位で行い、測定部位にカフを巻きます。
尿素呼気試験	尿素呼気試験	13C-尿素（UBIT）を服用し、服用前後の13CO ₂ の変化量を測定することにより、H.Pylori感染の有無を調べる。	食事制限あり 起床してから食事はしないでください（検査前約6時間）。飲水（水のみ）は検査1時間前までは少量であれば差し支えありません。当日の糖尿病の薬は飲まないでください。血圧や心臓の薬は飲んでください。
心臓超音波	心臓超音波検査	心臓の心室、心房の大きさ、壁の厚さや動き、弁の形態や動きを調べます。	食事制限はありません。上半身は薄着になっていただきますので身軽な服装でお越しください。ワンピース、ボディースーツ、ストッキングは避けてください。
	経食道超音波検査	胃カメラの様に、口から食道に直径約1cmの超音波発信器の管を入れて検査します。通常のエコーよりも詳細な検査が可能です。	食事制限あり 検査の前日の21時以降は食事はとらないでください。飲水は検査1時間前まで可能ですが、水のみ500ml程度までとします。当日の糖尿病の薬は飲まないでください。血圧や心臓の薬は飲んでください。入れ歯は外していただきます。検査後2時間は絶食です。検査後1時間からはうがい、入れ歯、喫煙、少量の飲水が可能です。 麻酔に対してのアレルギーがある方は事前に申し出てください
超音波検査	腹部超音波検査	腹部に超音波をあて肝、胆、膵、腎、脾、消化管、膀胱、前立腺、子宮、卵巣に異常がないかを調べます。	食事制限あり 起床してから食事はしないでください（検査前約6時間）。飲水（水のみ）は検査1時間前までは少量であれば差し支えありません。当日の糖尿病の薬は飲まないでください。血圧や心臓の薬は飲んでください。腎臓・膀胱の検査の場合は検査前は排尿しないでください。検尿もしないように注意してください。また、場合によっては飲水をしていただくことがあります。
	肝硬度測定	超音波を用いて肝臓の硬さを測定します。	食事制限あり 検査前最低4時間は食事はしないでください。飲水は少量であれば差し支えありません。当日の糖尿病の薬は飲まないでください。血圧や心臓の薬は通常通り飲んでください。 ペースメーカーを装着している方は検査不可 です。

	乳腺超音波検査	乳房と脇に超音波をあて異常がないかを調べます。	食事制限はありません。上半身は衣服を脱いで検査を行います。女性技師が担当します。
	甲状腺超音波検査	首周りに超音波をあて、甲状腺や頸部リンパ節に異常がないか調べます。	食事制限はありません。首周りが大きく開けられる服装でお越しくください。
	その他表在超音波検査	唾液腺やその他の体表に超音波をあて異常がないかを調べます。	食事制限はありません。検査部位が露出しやすい服装でお越しくください。
血管超音波	頸動脈超音波検査	頸部（首）の動脈に超音波をあて、血管壁の状態や血液の流れを調べます。	食事制限はありません。首周りが大きく開けられる服装でお越しくください。
	下肢静脈超音波検査	下肢（足の付け根から足首まで）の静脈に超音波をあて、血栓の有無や血液の流れを調べます。	下半身は使い捨ての検査着に着替えていただいて検査を行います。
	下肢動脈超音波検査	下肢（足の付け根から足首まで）の動脈に超音波をあて、動脈の閉塞や狭窄の程度を調べます。	下半身は使い捨ての検査着に着替えていただいて検査を行います。
	腎動脈超音波検査	腹部動脈から分枝する腎動脈に狭窄がないかを調べます。	食事制限あり 検査前約6時間は食事をしないでください。飲水（水のみ）は検査1時間前までは少量であれば差し支えありません。検査前の糖尿病の薬は飲まないでください。血圧や心臓の薬は通常通り飲んでください。